

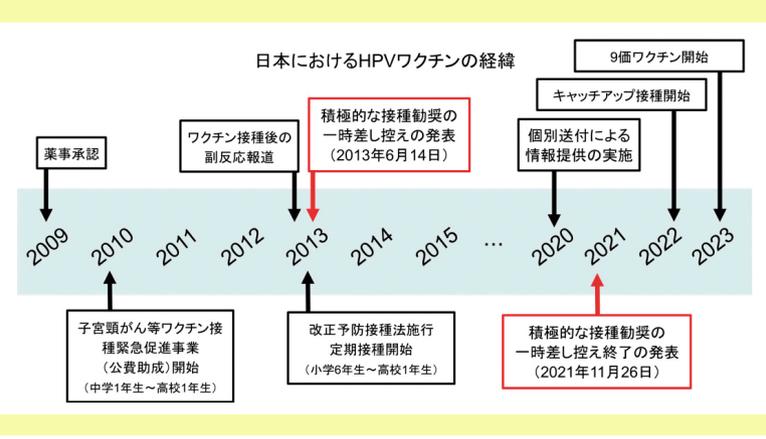
大阪府がん登録データを用いた HPV 関連がん年齢調整罹患率の動向 (1977-2019年)

YAGI Asami
八木 麻未
大阪大学大学院



日本がん登録協議会第32回学術集会 in 青森で、発表いたしました「大阪府がん登録データを用いた HPV 関連がん年齢調整罹患率の動向 (1977-2019年)」を最優秀口演賞に選出頂きました。本研究は、大阪府がん登録データを用い、HPV (Human papillomavirus) 関連がんである子宮頸がん、膣がん、外陰がん、陰茎がん、肛門がん、中咽頭がんについて1977~2019年の年齢調整罹患率の動向を調べました。多くの HPV 関連がんは増加傾向にありましたが、HPV 関連がんにおいて最も症例数の多い子宮頸がんは、40~59歳の群で近年横ばいに転じていました。この横ばい化は HPV ワクチンの本邦への導入によるものなのか、薬事承認から横ばい化までの期間および接種率を検討しました。日本の HPV ワクチンの経緯は図に示す通りです。横ばいになっているのは公費助成前の自費接種の世代であり、接種率は非常に低いものでした。また薬事承認から横ばい化までの期間も整合性がなく、HPV ワクチン接種による減少効果とは言えないと考えられました。今後、検診受診率、性活動性、喫煙率、衛生

環境の変化・影響についても検討したいと考えております。この場をお借りして、ご指導頂きました共同演者の先生方、座長の西野善一先生、杉山裕美先生、大会長の斎藤博先生に心より感謝申し上げます。



電子カルテを開かずに真のがん症例の判定が可能なシステムの開発

ISA Nana
伊佐 奈々
琉球大学病院がんセンター



この度はこのような賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。心より感謝申し上げます。

今回、ケースファインディングにかかる作業効率の改善のため、電子カルテを開かずに真のがん症例の判定が可能なシステム『がんみつ』を開発しました。

1. 『がんみつ』の主な3機能

①症例一覧画面 (図1) には、患者ごとにカルテ記事数、がん関連指導料算定件数、細胞診陽性数、HosCanR にすでに登録している腫瘍の件数を表示。②対象症例をクリックすると、カルテ記事を含めたすべてのがん関連情報が一画面で展開し、かつ時系列で表示 (図2)。③各がん関連情報が自動的に重みづけされ、色が付くため、手術や化学療法などの重要なイベントをすぐに把握することが可能 (図2)。

2. 『がんみつ』導入での具体的な成果

①患者 ID をクリックすることで、症例ごとにごがん関連情報が一画面で展開されるため、電子カルテを開かずに判定が可能となった。②カルテ記事を含めたすべてのがん関連情報を自動で時系列に並び、診断から治療までの経過が一目で分かり、判定が容易

になった。③病理診断書の内容、インフォームドコンセント実施内容、手術日など、重要な情報源に重みづけし、色付けを行ったことで、重要情報の見落としがなくなった。④システムの導入前 / 導入後では、電子カルテの参照件数は1日平均56.7件 / 9.5件、がん症例判定のための作業時間は1症例7.3秒 / 4.4秒とそれぞれ大きく減少した。

『がんみつ』は Excel の標準機能であるパワークエリ、ピボットテーブルおよび VBA を用い、自施設の職員が開発していることから、開発費用がかからない点において大きな利点があります。ケースファインディングにかかる作業の労力は、すべてのがん登録実務者の課題です。今回用いた情報源はどの施設も保有しており、多くの施設で効率的なケースファインディングが実現できる可能性があると考えます。

図1 『がんみつ』症例一覧画面

図2 『がんみつ』対象症例の一画面に展開されたがん情報閲覧画面